

# 校内ネットワークの活用と、児童の主体的な学習の創造

京都府園部町立園部第二小学校 教諭 田丸 文雄

sonobe2-es@kyoto-be.ne.jp http://www.sonobe.ed.jp/sonobe2-es

キーワード：校内児童用ネットワーク、情報の蓄積と発信、情報の発信と情報モラル、図書館教育  
児童の主体的な学習を支える学習環境の整備、校内の様々なメディアの活用

## 1. 本校の概要

平成 11 年度に開校した本校は当初より校内 LAN が敷設され、普通教室をはじめすべての学習の場からインターネットを利用できる環境が整えられていた。また園部町では VOD 学習システムや町全体で環境教育を進めるための環境データマップシステム・環境掲示板の構築、中央図書館及び学校図書館の情報化、校内では学校図書館とコンピュータ室をひとつにして児童の主体的な学習を支える学習情報センターとしての機能をもたせるなど、学習環境の面からも教育の情報化の取組を進めてきた。また基礎学力の充実に向け、インタラクティブスタディを導入し家庭学習とも結んだ取組を進めている。

このような中で本校では、校内児童用ネットワークを児童の情報活用能力を育成する基盤として、情報の蓄積と発信や情報モラル等を学ぶ場として活用するとともに、校内 TV 放送・学校図書館等、校内の様々なメディアを生かし、コミュニケーション能力を高め、児童が課題に対し適切な情報手段を選択し、主体的な学習を進めるよう取り組んでいる。

## 2. 実践の概要

### (1) ネットワークメディアの中心としての校内児童用ネットワーク「OKNet」

校内 LAN を活用して、すべての学習や活動の中で情報活用能力を伸ばせるよう取り組んでいる。OKNet (Oyama Kodomo Network) は、その中に設置している HP である。学年のページ、学習リンク集、検索のページ、子ども掲示板等を設置して、コンピュータ・ネットワークを活用した学習の出発点として児童による利用を進めている。次に、その中の子ども掲示板を、学習活動で収集した情報を表現・交流し、共有し合う場として活用している例を紹介する。



写真 1 「OKNet」

- ・ 4 年総合的な学習の時間「心と心でキャッチボール」

学校内や地域にあるバリアフリーの施設をデジタルカメラで撮影し、その映像をもとに施設の意味について考え合い、子ども掲示板で自分の考えを全校へ発信して交流し合った。

- ・ 5 年総合的な学習の時間「環境探検隊」

「川のよごれ調査」を行った子どもたちが川の実態や自分の意見を発信する場として活用した。

- ・ 6 年算数科「資料の調べ方」

「すきな学習」「くだものアンケート」などのグループに分かれ、テーマを決めて情報収集に取り組んだ。その中には、アンケート用紙を配布して全校児童へアンケートを実施するグループの他に、「ネットでアンケート」として OKNet にアンケートを設置し、児童自らが考えた項目を登録して全校にアンケートへの参加を呼びかけて取り組んだグループもあった。それら様々な方法を体験し交流する学習を通して、教科の目的の達成と併せて、それぞれのメディアの特徴をつかみ活用する能力の育成も図ることができた。

### (2) 学習活動の成果や情報の蓄積・発信

本校では、学年段階での指導を踏まえ、子どもたちの学習活動の成果を、大切な情報としてデジタルだけでなく多様な形態で蓄積し、授業で活用したり、広く発信をしている。そしてこれらは今後の学習のきっかけとなったり、意欲を高め学習の見通しをもったり、さらに高度な学習へと導く教材・情報として役立っている。



写真 2 「校内 TV 放送」

3 年は総合的な学習の時間「そだてよういのち」の学習のまとめを製本し、図書館へ置いて自分たちの学びを全校に発信している。

4 年国語科では、今年度教科書が新しくなり、「アップとルーズで伝える」で目的に合わせた伝え方について学ぶ。年間 20 数回行っている児童による校内 TV 放送や学校長による「漢字の森」TV 放送（どちらも生放送）を生きた教材として扱うとともに学習したことの成果を放送に生かしていくことにより、児童の学習意欲や学習の質を高めていきたい。

5 年国語科「ニュースを発信しよう」の学習で、児童は発信の手段・方法として新聞・ビデオを使う等の学習を体験した。その後、そこで学習したことを生かし、児童会の活動の呼びかけを校内テレビ放送を通じて全校に行うようになった。そして、ニュースを伝えるポイント、はっきりとした話し方、その際の表情などを意識し、

自分たちの考えをしっかりと伝えられるよう工夫を行ってきた。その成果を教材化するために、そのデータ（動画ファイル）を OKNet 上の情報として保存し、常に取り出せる状態にしている。

6 年は総合的な学習の時間「小山の歴史物語」で自分たちが調べた先人たちの歩みや歴史、現在も残っている遺跡等についてスタディノートを使ってまとめ、それを本校インターネット HP で公開・発信を行った。

**(3) 園部第二小学校 HP での発信と個人情報や情報モラルの学習**

園部第二小学校では、ネットワークの基礎的な体験・学習の場として OKNet を活用しているが、校内だけの限られたネットワークであることを常に意識をさせてきた。OKNet のトップページに「この OKNet は、学校内だけで見ることができる園部第二小学校のみんなのページです。学習に役立てたりみんなが楽しく活動するために役立てましょう。家など、学校の外からは見ることはできません。」と記述し、インターネット（外の世界）との違いや役割を考える教材ともしてきた。この両者の関係については、日常的に児童が活用している校内 TV 放送と同様に考えさせることで理解を深めてきた。

一方、この限られたネットワークは、個人情報や情報モラルに関する学習を行う際にコントロールがしやすく、影響を最小限に抑えたりフォローがしやすいといった利点もあり、次のような形で段階的な学習を経てインターネットへとつないでいる。

5 年では、宿泊体験学習の活動内容、思い出等の情報を OKNet 上の児童掲示板で発信した。これまで作文の形で表現していた内容を画像といっしょに表し、発信するとともに、ネットワーク型のメディアのもつ双方向性を生かして感想を付け加えたり互いが交流し合う学習を進めたりすることができた。「みんなのりり溪日記」と題したこの学習を通して、発信することの楽しさ、喜びを味わった子どもたちは、「OKNet からインターネットへ」発信をしようと気持ちが広がっていった。この中で OKNet とインターネットの違い、個人情報の扱い、情報を発信する際の基本的なモラル等についての学習を進め、写真や名前に配慮をした発信を行った。

6 年では、総合的な学習の時間「未来レポート」で仕事体験の取組をインターネットで発信するにあたり、自分たちのまとめた内容や現場で撮影した画像等の使用について、問い合わせをして確認することや許可を得る必要があることを考えた。これにより、相手を尊重した情報発信の大切さを実際の活動を通して学習することができた。そして、情報を発信することや交流することの楽しさとともに、相手の立場を考え、相手を尊重した発信をすることについて考えることができた。



写真3 図鑑・百科事典

**(4) 図書館教育とともに児童の主体的な学習を支える取組**

本校は一昨年「知と心を育む図書館教育」を研究主題に実践に取り組んだ。その中では豊かな心をはぐくむ読書指導とともに、「自ら学ぶ力」を育てる学び方の指導も計画的に行い、学校図書館やコンピュータ・インターネット等様々なメディアに振り回されることなく、それらを自らの学習課題にあわせて使いこなすことで、主体的に学ぶ力の育成を図ってきた。

- ・図鑑・百科事典を使い、ヒトの体のつくりについて調べている児童。
- ・VOD を使いビデオを視聴して疑問を解決している児童。
- ・インターネットを使い「体の仕組み」「呼吸」で検索し、より専門的な知識をホームページから得ている児童。

これは、ある日の図書館・コンピュータ教室の様子である。6 年理科「ヒトや動物の体」の学習で子どもたちはそれぞれがもった学習課題に対し、図書館・コンピュータ教室で最も有効な手段を自らの意志で選択し、情報を得て学習課題に向かうという学習をごく自然に行うようになった。



写真4 VOD

**(5) より確かな発声・表現の力を育てるために（特別支援教育への活用）**

これまでから MIDI を歌唱指導や器楽指導に役立ててきたが、高品質のオーディオインターフェイスを活用することにより、音声データを児童の学習に生かすことができる。これを特別支援教育にも生かすべく、取組を進めている。具体的には、障害児学級で MP3 レコーダーを使い、より確かな発音・発声の力を育てる取組である。高音質ですぐに自分の発音を確かめることができるために、より正しい発音を意識して進んで学習に取り組めるようになった。さらに、教師の発音教材 CD を作成することにより学校と同じ内容で家庭学習に取り組めるようにもしている。



写真5 インターネット

**3. 終わりに**

本校では、校内児童用ネットワークを中心に学校図書館・校内 TV 放送・インターネット等様々なメディアを生かして児童が学び方を身に付け、主体的に学習を進めることができるよう取組を進めてきた。

その際、自分の考えや作品そして学びが教室で大切にされ、図書館で大切な学習資料・作品として生かされ、デジタル教材としてネットワークの中に保存されて学習に活用されることは、自分の学びに自信をもつことにつながり、そのことが学びを確かなものにし、さらに学習意欲を高め、確かな学力を築いていくことにつながると考える。そういった意味で、今後ともこのことを大切にしながら取組を進めていきたい。